〔千葉医学 63, 318, 1987〕

〔海外だより〕 ウッズホール海洋生物学研究所

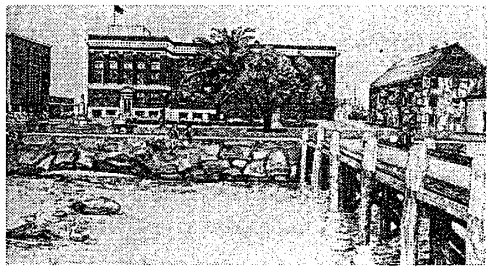
解剖学第二講座 龍 岡 穂 積

昨年11月より私は NIH (National Institutes of Heath) の visiting fellow として，Massachusetts 州 Woods Hole の MBL (Marine Biological Laboratory) で研究生活を送っています。本来 NIH の本部は Washington D.C. の郊外にある Bethesda ですが，主任教授 (Dr. Thomas S. Reese) が約3年前からこちらに滞在して研究しているため，私の研究生活も MBL で始まったわけです。

MBL は1888年前に創設された世界屈指の海洋生物学研究所ですが，日本の三崎臨海研究所とも深い繋がりがあります。第二次世界大戦直後の1945年，アメリカ軍に三崎臨海研究所が没収される際，団 勝磨（元都立大学長）教授によって書かれ，研究所のドアに貼られた歴史的に有名な警告文 "The last one to go（立ち去るにしのびざる者より)" の中にも MBL の名が記載されています。ちなみにこの原文は現在 MBL の図書館の正面に展示され，ここを訪れる人々に，学問の為に闘った敗戦国日本の一学者の心意気を示しています。また団教授自身も，当時 MBL の教授をされていた女性生物学者 (Jean Clark) と国際結婚をされました。

Woods Hole はアメリカ東海岸有数の保養地である Cape Cod の南端に位置し，最寄りの大都市 Boston から南へ約75mile. New York から北東へ約250mile 離れています。この地は MBL の他に WHOI (Woods Hole Oceanographic Institute) を含む2～3の研究施設がある以外は，専ら観光と漁業によって生計が立てられている小さな町です。その為 Woods Hole の顔は季節によって非常に異なります。夏は上記の地理的条件が重なって観光客で賑わい，町は文字通り人や車でごった返しますが，この季節を過ぎれば，町には研究者や研究所に勤務している人以外はほとんどいなくなり，夏に開いていた店も大部分閉じてしまいます。

MBL 自体も夏には，アメリカ国内は云うに及ばず，世界各国から一流の研究者が集まって来て，保養を兼ねて研究や，学生を対象とした講義が行なわれたりして，Woods Hole の町と同じように活況を呈します。講義は5つのコース (Neurobiology, Neuronal system, Physiology, Embryology, Marine Biology)に分かれて行なわれ，各コースに約12名の大学院生あるいは postdoc が参加し，約10週間に亘って非常に密度の濃い講義と実習を受けることが出来ます。それらの講義は一般にも公開されていて，MBL や WHOI の研究者もよく聞きに来ています。私も屢々出席しましたが，非常に参考になる内容がいくつかありました。私はアメリカの大学で行なわれる学生を対象とした講義を聞いたことがありませんので，一般的なアメリカの講義が日本のそれとどのように違っているのか分かりません。そこで MBL で行なわれた講義だけに限って日本のものと比較しますと，日本と同じように初めは一般的な序論から入るものの，大部分はその講演者が現在行なっている実験や，得られたばかりの最新の結果が示されるために，内容は非常に高度で，最先端の学問の状況を知ることが出来ます。しかもアメリカ人の常として質問することがとても好きですから，おもしろい結果などが示されると学生ばかりでなく，研究者からも質問の声が飛び交い，講義が長時間に亘って中断されることも屢々です。



カットは Lillie 館(受精やフリーマーンの研究で有名な F.R. Lillie (1870～1947)の名を記念した MBL の建物の一つ。

研究所を離れますと，Cape Cod における生活はおそらくアメリカの大都市やその郊外で暮らすことに比較すれば，格段に治安が良く，古き良き時代のアメリカを彷彿とさせる思いです。住民は大部分が白人で，東洋人や黒人はめったに見かけません。日本人も非常に少なく，日本食を手に入れることもこの周辺では難しく，止むを得ず Boston まで足を運んでいます。それでも日本の軽井沢に似通ったさわやかな気候と自然を満喫しながら，ひたすら研究生活に没頭出来ること，この素晴しい環境を与えられた事に感謝の思いが一杯です。そして，このような機会を与えて下さった関係の者方々に深謝すると共に，アメリカにおける2年間の滞在を少しでも実り多いものとすべく，今後も努力して参りたいと考えております。

(昭和62年9月7日受付)